

2014年6月21日

## 仕組みでしか働けないわけじゃない

一月のあの華々しい発表は何だったか、不可解な着地点のSTAP細胞問題。ピンク色の研究室で仕事をする様子など、誰がこの発表を演出しているのか、裏方への興味がわいたものでした。

ひょっとして広報室を通じプロモーション専門の会社を取り仕切ったのかしらと思っていたら、そうではなくて、発表者たち自身が進めたことなのです。

考えてみれば、ムーミンのピンクの研究室に割烹着というのは、プロからするとナンセンスなのかもしれません。アマにはよい思いつきを感じたのでしょうか。

どうやら、これまでも、おかしいと思われることが続いていたようなのに、まるで誰も知らん顔していたような環境。そのうち大変なことになるとわかっていた人もいたのではないのでしょうか。

3年前の巨大地震の際、搜索にロボットが使われましたが、日本

のものではなかった。ロボット先進国と言われているのに、使えるロボットがない。その問題を書いた記事が当時日経に載りました。

中でベテラン科学者がコメントしています。『研究現場が、研究者たちの声を吸い上げる仕組みになっていない。そういった事態を変えていく必要がある』。

“仕組み？仕組みの問題か・・・”。今どきの組織はどれも、仕組みはある程度整っています。

仕組み、それ以前の問題。仕組みがどうあろうと、人間のごくごくシンプルな直感、目目の物事の良し悪し、それがもたらす結果を認識しながら、表に出さないというのはフェアじゃない。

会社やさまざまな組織で働くわたしたち、仕組みがどうあろうと、まずは一人の人間。基本的なフェア精神で協働しなければと思うのでした。



『なんで？』『なんでも！』  
当所から二分もかからないところにある行きつけの美容室。担当は経営者である店長、四十代後半。カットしてもらいながらの雑談もたのしいものです。『人生に勝負を賭けて、二店目を出すことにしましたよ』。梅田の一等地にもう一店、それはたしかに大きな決断。『でもこれまで全部自分でやってきたから、人にまかせるといのが不安で...』。それもわかりますが、『まか

せる度量をつけていって、人間の器が大きくなっていくな...』。『いいこと言うなあ...』。どういたしまして。  
先日は後ろの髪をカットしながら、『むずかしいなあ、うーん』とぶつぶつ。何を言っているのか、『なんで？』で聞いたら、『なんでも！』。呆気にとられた切り返し。でも何故か懐かしく、コミカルで、かつ、二の句も告げられないのが軽妙。これは使えるセリフ？と思っただいです。

## 夏至をくぐれば、仕事へ一気

6月21日は夏至。このあたりから地に足ついて、仕事に本腰が入る。そういう流れではありませんか。



そんなそわそわも梅雨入りの頃には静まり、目の前の仕事に専念し始める。すると夏至。一年の半分が過ぎました。

春先から初夏にかけては新旧年度の入れ替わりがあり、異動があり、桜だ新緑だと、外のキラキラした風景に、人々の心もうばわれ、行事も多く、世の中がそわそわしている。

いざ、ここからが仕事の本番。夏休みまでに一仕事、夏休みの後は一気に駆けるぬける。冬至の頃には、ある種の達成感を味わっている。そんな半年後をイメージし、この梅雨を乗り切りましょう。

LEE'S リーズ  
http://www.leeslee.com  
〒530-0012  
大阪市北区芝田2丁目8-15  
北梅田ビル35号  
リー・ヤマネ・清実